

実績報告書

令和5年度

ハイジこども園

児童の処遇	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・新入園児に対して、入園前に面接を実施し、個人の出発履歴や健康状態、生活態度等を把握した。 ・内科検診を6月、12月の2回受診した。その結果、異常の園児は保護者へ伝え病院受診を進めた。 ・歯科健診を5月、11月の2回実施した。受診結果は保護者へ伝え、早めの受診を促した。 ・毎月、保健だより、健康だよりを発行し、病気の予防を促した。感染症が発生した時には、ポスターを提示し予防を促した。 ・熱中症対策として、子供たちの体重から1日の必要量を表にして、定期的に水分を摂取するよう促した。 	運営管理 (清掃・消毒)	主な行事	<ul style="list-style-type: none"> こいのぼり掲揚式(5月)、七夕会、発表会(7月)、ファミリースポーツデー(11月)、クリスマス会(12月)、造形展(1月)、豆まき(2月)、ひな祭り、卒園式(3月) ・毎月の行事では、子ども達がワクワクできるように職員間で工夫を実施する事ができた。 	
	栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期栄養報告書の作成及び身体状況の把握 ・給食は、浦添市保育所統一献立を参照にした。 ・個々に合わせた離乳食の充実を努めた。 ・今年度はアレルギーの子が8名いた。アレルギー調査票に基づき代替食品調理法で栄養が偏らないようにするとともに家庭との連携を密にし、個別対応を行った。また、アレルギーのある子に関して職員間で情報共有し、二重チェックを行い、事故のないように努めた。 		諸会議	<ul style="list-style-type: none"> ・職務会、処遇会議ケース会議、給食会議、火災訓練会議、危機管理会議を毎月開催し、職員の共通理解を図った。 	
	保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・当園の保育教育の目標を確認し、全体的な計画、年間指導計画、月間指導計画、週間計画を作成した。それに基づき、日々の保育保育活動を実施し、反省、評価を行い、到達度を確認しながら次回へと繋げた。 ・個人面談を実施し、保護者の意見を確認しながら園児個々の教育・保育目標を設定し、その達成に向けた指導ができた。 ・年齢別の評価表を学期毎にチェックすることで、個の発達について確認し、次回に繋げることができた。 ・英会話、太鼓、リトミック、音楽指導、体育指導については専門の外来講師を活用し教育保育内容の充実を図った。 ・園バスを活用し、広い場所で体を思いきり動かしたり、自然物を収集し制作活動につなげ、造形活動へと発展させた。 ・保育参観を実施し、子ども達の園での様子や活動等を保護者へ観てもらうことができた。保護者から「良かった」との声が多かった。 		各種点検	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備点検(年2回)、水質検査及びタンク清掃(年1回)、エレベーター点検(毎月・3ヶ月に1回・法定年1回)、害虫駆除(年2回)、汚水槽清掃(年1回)、白蟻点検(3ヶ月に1回)、グリストラップ清掃(年4回)、厨房機器の点検、地震速報点検(年1回)電気等の定期保守点検を行った。 ・貯水槽清掃年1回(本園、分園)、毎朝、厨房職員(早番)の人が水質検査をし、残留塩素の確認をした。 	
				屋外	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に園庭等の草刈りをしたり、プランターに花を植え中庭や玄関先に置き、環境美化に努めた。 ・毎週月曜日に砂を掘り起こし、塩素系漂白剤で消毒をした。 ・各倉庫は定期的に点検をし、片付けて整理整頓に努めた。 	
				園内	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室は、一日2〜3回掃除機をかけ、ダスキンをして清潔を保つようにした。 ・クーラーのフィルター、空気清浄機の清掃を毎週土曜に行った。 ・窓、網戸、カーテン、押し入れの清掃を定期的に行い、清潔を保った。 ・お星寝用マット、ゴザは毎週1回日光消毒をした。 ・使用後の食器類は全て保管庫で消毒をする。 ・乳児玩具は毎日拭き、室内遊具は週に1回消毒液で洗った後、日光消毒をした。 	
				厨房	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、毎週、毎日調理器具の点検を行い、記録に残している。毎日の水質検査、職員の健康チェックを実施した。 	
	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健康診断(中部医師会、ハート7病院、徳洲会新都心クリニック)を実施。診断の結果、再検の必要があった職員は、各自病院にて検査を促した。 ・蛔虫、尿、便検査の実施で異常なしだった。調理員、乳児担当保育教諭に関しては、月1回検便検査を実施した。全て異常なし。 		火災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練計画に基づき、毎月1回、火災訓練を実施し、その結果の会議を行い、避難経路の確認や改善すべき点等を話し合いをし、次の訓練に備えた。それと同時に避難経路等の整備、点検を行った。 ・浦添市消防署出動による避難訓練の実施。保育教諭が主体的に模擬訓練を進め、園の訓練の概要を実際に見てもらい、適切な避難訓練ができていないか習員から指導を仰いだ。(立ち合い訓練) 	
	職員の処遇	労務管理・福利厚生		<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりの状況を把握し、継続して勤務できるようにそれぞれに合った働き方について検討した。 ・就業規則に基づき運営した。 ・複数担任やクラスで交代しながら、休憩時間を取る体制作りを努めた。 ・各種社会保険、退職金掛け金へ加入し、職員の処遇の充実を図った ・インフルエンザ感染拡大防止のため予防接種を促した。 	非常災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな地震からの二次災害で、津波が到達する事を想定し、3階、牧港小学校、伊祖公園までの避難訓練を行った。 ・園庭、駐車場、玄関等いろいろな所から不審者侵入の想定をして、園児たちを安全に避難させる訓練を行った。また、浦添警察署の方に来てもらい、訓練内容を実際に見てもらい、助言をもらった。 ・大雨洪水、雷、台風時等の園児、職員の行動訓練を実施した。
		研修関係		<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動を重点的に位置づけ、職員間で共通理解ができるように検討会を重ねて、日々の造形活動を充実させた。 ・園内研修の実施や、キャリアアップ研修、園外研修やオンライン研修に積極的に参加し、職員の資質の向上を図った。 		消火設備
	運営管理	業務管理		<ul style="list-style-type: none"> ・職務分担表に基づき、各係を中心に計画実施、点検等を行うことで円滑に業務が遂行された。 ・昼ミーティングで各クラスの動態を共有し、登降園時の連絡事項を徹底することにより、保護者への対応がスムーズにできた。 ・定数よりも多く職員をクラスに投入することでゆとりを持って保育の準備や申し送りを済ませる事ができ、落ち着いた教育保育を進めることができた。 ・職員に主体性を持たせ役割分担を設け責任を明確化し、経営参加を促した。 ・会計・経理について出納責任者、通帳、銀行印、固定資産、予算、管理者、契約担当が会計基準に基づき事務処理を適正に行った。 ・年一回監事、行政指導監査を行った結果適切な会計処理がなされていた。 	地域交流・保護者・子育て支援	地域交流・保護者
子育て支援			<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業は今年度は重点的に取り組んだ。毎月、子育て支援事業のたよりを作成し、広い範囲で広報活動に力を入れた。また、リトミックや離乳食・給食体験はとても人気があり参加者が多かった。それから、園庭開放や季節の行事等の参加者も増えてきているので、今後の子育て支援の内容も充実させていけるように努めていく。 			

令和5年度 ハイジこども園 こども園自己評価結果

「幼保連携型認定こども園教育・保育要綱」第1章総則第2節1(4)に基づきこども園の自己評価が位置付けられています。自らの教育・保育実践と子どもの育ちを振り返り、自己評価を行います。その結果を、次の教育・保育に向けて改善を図り教育・保育の質を向上させることを目的とします。

<評価方法>

評価 … 次の基準によって評価欄に4・3・2・1と記入する。

【 4:できている 3:ほぼできている 2:あまりできていない 1:ほとんどできていない 】

内 容	評価	意見・改善策
1.保育・教育の理念	3	○保育目標・計画について、十分理解できていないと考える。年度末や年度初めにクラスごとに時間を十分とって確認していく。 ○年度途中で評価・反省を行い、保育教諭間で検討を重ね、見直しを行っていく。 ○保育方針や指導計画、評価についてベテラン保育教諭と若手保育教諭との検討を重ねていく。
2.保育教諭としての自覚	4	○、社会人としての基本的なルールや保育教諭としての自覚、自信などは高評価である。今後も継続していけるように職務会等で、繰り返し確認していく。
3.養護	4	○子どもの安心・安全に関する項目であるので、常にミスのない事が求められる。保育教諭の業務の中で緊張して関わることを、常に意識させるように取り組んできた結果である。今後も継続していく。
4.教育 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)	3	(人間関係)○人とのコミュニケーション能力を育てることは子どもの将来にとって重要であり、この時期大切なことである。保育教諭がバランスよく仲立ちしたり、相手を思いやる心を育て、ルールを守って行動できるように指導しているが十分ではない。保育技術を更にステップアップできるように努力していく必要がある。 (環境)○子ども達の主体性を尊重しながら活動を楽しめるような工夫や環境構成について職務会等で議論していく。 (言葉)○保育教諭自ら、言葉で伝える大切さを理解し子どもと向き合えるように取り組む必要がある。言葉について再確認し、充実させるための技術、方法等を検討していく。 (表現)○子どもが伸び伸びと表現できるような内容や方法について検討を重ね、職員間で情報の共有の場を設定し、強化していく。
5.障がい児保育	3	○毎月、発達障害コンサルテーションの検討会を開催しているが十分ではない。今後、更に掘り下げて分析し、改善策を検討する。
6.健康及び安全	4	○安全に関わる項目である検温、午睡チェックは、徹底して行っている。 ○様々な研修に積極的に参加し、感染症や防災についての知識を広げ、園全体で共有している。 ○災害・傷病訓練は毎月行い、訓練結果を話し合い改善点など検討し、マニュアルの改善に繋げている。
7. アレルギー	4	○アレルギーに関する対応は命に関わる重要なことである。知識を厨房職員と共に、共有し、その対応を統一している。 ○除去食においては、チェック表を用いて常に緊張感を持って対応している。全職員に周知徹底するようにしている。今後も継続していく。
8.食育	3	○食育は重要課題として捉え、食育計画を作成・実施しているが十分ではない。 ○年度初めに食育について、目的や計画を見直しに行く。
9.虐待	4	○虐待に関して、保育教諭が子ども達一人一人を把握するようにしている。気になる子がいれば、情報を共有し、その対応について上司に即相談できるような体制ができている。継続して行う。
10.地域・家庭支援	3	○子どもの様子を保育参観やクラスだよりで知らせている。気になることがあれば登降園時に親に知らせるようにしているが、十分ではないと考えている。今後、保護者との信頼関係を築くための方法について検討していく。 ○地域の文化、行事等に触れていくためにはどうするか議論していきたい。
11.経営・組織	3	○職員間では、話しやすい雰囲気はできているが、組織の一員としての自覚や役割について、十分理解していない面がある。今後職務会等で検討会を重ねていく。
12.研修	3	○オンライン研修が殆どであった。そのため、数多く参加したが、全体での復命は十分ではなかった。また、研修内容が、園での保育活動に活かせるように更に強化していく。

<保育教諭の自己評価総評>

○子どもの生命にかかわる「養護」「健康及び安全」「アレルギー」「虐待」「保育教諭の資質」等に関しては高評価であった。これは、常日頃から、緊張感を持って対応するように確認している結果だと思う。
○全体的には「3、ほぼできている」が多い。去年の自己評価より、わずかではあるがポイントは下がっている。また、ベテラン保育教諭と若手保育教諭で大きく差がある。これに関しては、項目を整理、分析し、若手保育教諭の課題を引き上げるための検討会を開催する。

○自己評価を実施することで保育教諭として、日頃の保育活動の評価、反省と振り返りを行うことができ、活動の改善等に活かされている。

<こども園評価>

○園全体の目標や課題を職員全員に周知徹底している。しかし、十分ではないので、更に強化していくためにはどうすれば良いかリーダーを中心に検討していく。

○乳児から就学までの教育・保育を実践するにあたり、幼児期の終わりまでに育てほしい「10の姿」を意識した年間計画の作成や実践・振り返りを通して、目標達成に努めている。更に強化していく。

○新型コロナウイルス感染症が5月から第5類に移行されたことを受け、感染症対策を徹底しながら、従来の保育教育活動が展開できるように職員一丸となって取り組んでいく。

○現状や課題について常に問題意識を持ち、よりよい保育教育活動が行えるように更に努力を重ねる。今後も地域と共に子育て支援に努める。